

SCS
ミュージカル
研究所

梶賀 千鶴子
(構成・演出・振付)

劇団四季『キャッツ』や『シーズ・クライスト・スーパースター』等の演出補をはじめ、『むかしむかしソウがきた』『ユタと不思議な仲間たち』『人間になりたかった猫』『魔法をすてたマジョリン』『エリック・コスモスの239時間(エルコスの祈り)』等では作家・演出家として活躍。退団後は松本幸四郎主演ミュージカル『ZEAMI』、富田勲オペラ『ヘンゼルとグレーテル』などの演出や、地方自治体等からの依頼による創作ミュージカルづくりも手掛ける。
(有)純クリエイション取締役芸術監督、宮城県教育文化功労者、宮城県文化芸術振興審議委員、SCS ミュージカル研究所 主宰

SCS
ミュージカル
研究所

ヒロセ 純
(音楽監督・制作)

舞台プロデューサー、シンガーソングライター。1990年にSCSミュージカル研究所を設立。国内外でのオリジナルミュージカル上演・プロデューサーならびに音楽制作活動を続けている。
七ヶ浜国際村舞台芸術育成事業、米沢市民ミュージカル伝国座プロデューサー、東北大学非常勤講師、東北学院大学非常勤講師

SCS ミュージカル研究所

1990年創立。仙台を中心に創作ミュージカルの公演・制作・指導を行っている。主宰兼芸術監督は演出家の梶賀千鶴子。有限会社純クリエイションが運営し、同社代表の廣瀬純が音楽監督と研究所代表を兼務。上演した作品は150以上に及び。研究所のコースはマスターコース、プライマリーコース、キッズクラスの3コースがあり、幼稚園児から80代までの約100名が所属し、仙台市青葉区一番町の専用稽古場でレッスンや作品稽古を行っている。劇団四季、宝塚歌劇団などプロの道へ羽ばたいていった研究生も多い。研究所以外の業務においては、地方自治体などからの受託制作の実績も数多い。

震災遺構
仙台市立荒浜小学校

海岸から約700メートル内陸に位置し、2011年3月11日に発生した東日本大震災では、児童や教職員、住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた。津波による犠牲者を再び出さないため、その校舎を震災遺構として2017年4月30日より公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えている。

仙台市防災・減災
アドバイザー

及川 由佳里

仙台初・東北初女性消防士として拝命。消防隊員・指令課員として活動後、市民に防火防災の普及啓発活動を行う業務に従事。震災当時は、津波被災現場の最前線である若林消防署で署隊本部の運営にあたった。
2016年より、仙台市危機管理室減災推進課所属。現在は、仙台市防災・減災アドバイザー。

せんだい3.11
メモリアル交流館

地下鉄東西線「荒井駅」駅舎内にあり、東日本大震災前を知り学ぶ場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域への玄関口。1Fは、東部沿岸部の立体地図や震災前後のスライドなどがある交流スペース、2Fは、写真と文章で仙台の復旧・復興の様子が時系列で解る常設展と企画展を備えた展示室、3Fには、周囲の田園風景が楽しめる屋上庭園がある。



せんだい3.11メモリアル交流館(地下鉄東西線荒井駅舎内)
〒984-0032 仙台市若林区荒井字杏形 85-4
電話 022-390-9022